令和８年度
第１回 南相馬市総合教育会議

令和８年８月２１日（金）

南　相　馬　市

令和８年度第１回南相馬市総合教育会議 会議録

１　開催日　令和８年８月２１日（金）

２　場　所　市役所 本庁舎３階　第一会議室

３　会議時間　開会　午後　３時００分
閉会　午後　４時４０分

４　出席者

市　長	門馬　和夫
教育長	伏見　伸一郎
教育長職務代理者	金子　まゆみ
委　員	和田　菜子
委　員	山邉　彰一
委　員	百田　尊道

５　欠席者

（なし）

６　説明のため出席した者の職氏名

（教育委員会事務局）

教育委員会事務局長	宝玉　光之	次長兼教育総務課長	熊坂　真利
教育総務課総務係長	羽山　勇作	参事兼学校教育課長	亀田　邦弘
参事兼指導主事	青田　雅子	教育企画担当課長	佐藤　真紀
参事兼生涯学習課長	鈴木　隆一		

（復興企画部）

復興企画部長	渡辺　裕	次長兼企画課長	高橋　一善
主幹兼企画課長補佐			
兼企画係長	遠藤　一祐	企画課副主査	目黒　将也

７　傍聴者

（なし）

８　本日の会議に付した報告事項

（１）令和８年度全国学力・学習状況調査結果の分析について
（２）南相馬市業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく実施状況について
（３）令和７年度第２回総合教育会議における意見等への対応について
（４）その他

９　本日の会議に付した協議事項

（１）令和７年度主要施策（教育委員会所管）の評価について

（２）その他

10　本日の会議に付したその他事項

令和８年度第２回南相馬市総合教育会議の開催について

【配布資料】　別添のとおり

（１）会議次第・名簿

（２）令和８年度第１回南相馬市総合教育会議について　資料１

（３）令和８年度全国学力・学習状況調査の結果概要　資料２－１

（４）令和８年度全国学力・学習状況調査の調査結果概況　資料２－２【非公表】

（５）全国学調経年比較資料（H19～R8）　資料２－３【非公表】

（６）南相馬市業務量管理・健康確保措置実施計画について　資料３

（７）令和７年度第２回総合教育会議における意見等への対応について　資料４

（８）令和８年度サマーレビュー結果（総括）　資料５－１

（９）令和８年度サマーレビュー結果（詳細）　資料５－２

午後３時００分　開会

■次長兼企画課長

只今より、令和８年度第１回南相馬市総合教育会議を開催いたします。

本日、進行を務めさせていただきます企画課の高橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、はじめに市長よりご挨拶申し上げます。

■市長

皆様には、日頃から教育行政をはじめ、市のさまざまな事業にご理解・ご協力いただいておりますこと、御礼申し上げます。

さて、教育委員会並びに市の総合教育会議では、本年３月に「百田　尊道」委員、そして本年４月以降は「伏見　伸一郎」教育長を迎えて、教育行政を担っていただいているところであります。今回、令和８年度１回目の会議ということで、どうぞよろしくお願いします。

改めて、総合教育会議の役割とは何か、もうご存知かと思いますけども述べさせていただければと存じます。「教育委員会と首長が同じテーブルについてさまざま話し合う」ということで、平成２７年度から全国的に必ず設けることとなった経過があるようです。その趣旨（協議・調整事項）としては国では三つ定めているようです。

一つ目は、「教育行政の大綱（教育行政に関する基本方針のようなもの）の策定について」、二つ目は、「教育の条件整備等、重点的に講ずべき施策について」、三つ目は、「児童・生徒等の生命・身体の保護等、緊急の場合に講ずべき措置について」です。

そういう意味では、本来教育に関する方針等は教育委員会が担い、市は予算や施設の整備、条例の提出等を担うというような背景がありますが、こうした双方の役割について総合教育会議を合同で行うことによって、方向性を一致（足並みを揃える）するようにしようという趣旨なのだろうと思います。要は、教育に係る大綱や重大な案件について話し合う場ということでありますので、活発なご議論をお願いできればと思います。

本日は報告事項としては三点、「令和８年度の全国学力・学習状況調査結果の報告」、「南相馬市業務量管理・健康確保措置実施計画の実施状況の報告」、「前回（令和７年度第２回）の総合教育会議でさまざまいただいた意見等に対して、今どのように対応しているか、現状どうなっているかというようなことの報告」ということで、提出させていただきました。そして、協議事項としては、「令和７年度主要施策の評価について」です。昨年度、教育に関するさまざまな事業計画・目標がありましたが、それらがどのように実施されたかということでの評価を行うことが半分、そして、大切なのはこの評価を次年度以降に生かしていくということだろうと思います。したがいまして、もう令和９年度の予算がまもなく動き出すので、令和７年度の決算を基に反省をしたり評価をしたりして、令和９年度の予算はもとより、今年度の後半にどう生かしていくかというような意味での今回の評価という位置づけになります。

大切な会議だと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■次長兼企画課長

次に「３　出席者の紹介」に入ります。

本日は令和８年度はじめての会議でございますので、委員の皆様とともに、事務局職員についてもご紹介をさせていただきます。

（出席者　紹介）

■次長兼企画課長

続きまして、「４　報告事項」に入ります。

「南相馬市総合教育会議設置要綱」第４条第１項の規定により、これより市長が「議長」となり進行することとなりますので、よろしくお願いいたします。

■市長

暫時の間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

１時間半を目途に議事を進めさせていただければと存じます。

次第に従いまして、まず、報告事項「（１）令和８年度全国学力・学習状況調査結果の分析について」、事務局から説明をお願いします。

（参事兼学校教育課長　説明）

■市長

報告事項ではありますが、「学力」は議論の一つのベースになると思います。委員の皆様から意見・質問等いかがでしょうか。

■金子教育長職務代理者

今週、教育委員研修会がありまして、「学力向上」がテーマのグループで協議の方をさせていただきましが、そこでは皆さんさまざま参考になることをおっしゃっていて、大変感銘を受けました。特に感じたのが、参加者の皆さんが「あったらいい」というものが南相馬にはおおむねあることです。具体的に申し上げますと、「一方的な授業でなく、子供が主役の授業作り」や、「子供を肯定、先生が子供の良いところを認めてくれる空気感」などがあり、学力の数値に反して、といいますか良いところがたくさんあるなと感じました。取組が数値（成果）に繋がっていない状況ではありますが、長期的に続けていけば数値の向上にも繋がるではないかと感じているところです。

■和田委員

学力調査の結果の推移を知りたいと思っていた中で、資料２－３をご用意いただきありがとうございます。同じ集団（小学６年生時点→中学３年生時点）の結果を追うと、全体的に下がっている気がします。たしかに、中学になれば単純に設問が難しくなるので結果が下がることはご説明いただきましたが、（直感的に）下がっているなと感じたところです。やはり学年差はあると思うので、その子供たちが小学生から中学生になってもきちんと伸ばせているか、いう視点を大事にした方がいいのかなと思いました。

小中連携の観点からすると、その学年の癖みたいなものを小学校から中学校に進学する際に先生方がバトンタッチできると、よりよく伸ばしてあげられるのかなと思いました。南相馬の授業モデルも調査訪問で拝見し良いものだと思ってはいますが、そのモデルをベースにして、学年に見合った先生方の（指導の）ノウハウ・さじ加減も、ベテランの先生から若い先生にお伝えしていただけると良いかなと思いました。

■山邉委員

和田委員からもありましたが、全国学力・学習状況調査が始まったときからの変容を見ていくのに、資料２－３は貴重だなと思います。同じ集団（小学６年生時点→中学３年生時点）の結果を追うと、相関性があるものと読みました。小学校の段階で結果が良かった場合は中学校でもある程度維持できていましたが、コロナ渦頃の小学校時点の結果を３年後の中学校時点まで追うと、やはり低い状況にあるなと。

震災後、特に小学校ではだいぶ努力して成績が向上してきた経緯があったものの、それが落ちてきたことについて何に原因があるのかと考えたときに、おそらく資料２－２にある「市内における成績分布図」のようなものを見ると中位・下位層が多い現状であるわけですが、成績が良かったときはどうだったのかを振り返る必要があると感じています。それは各学校であったり、教育委員会であったりの立場で行うものかとは思いますが、もう一つ、大事にしたいなと思うのは、小学校で言えば調査自体は６

年生しかやらないけれど、各学校の先生方が全員で分析・協議するということであり、やってきているとは思いますが、分析結果をどうまとめたのかというのを市内の先生方で共有することも必要なのかなと考えます。結果が良かった学校もあるので、そこが「どのような分析をしたのか」「こういうことをやってきたから良かった、好成績に結びついたのではないか」など、そういうものを他の学校の先生方も共有する場面が必要なのかなと。現状、若手教員の増加傾向、２～３年での異動スパン、ベテラン組の増加があり、南相馬市だけではないものの、特に相馬地方の場合、若手が多くなっている状況はあるので、そういうものを共有する場面を作ってやはり若手を育てていかなければ、授業力向上にも結びつかないのかなと。やはり授業を大事にしていくことが一番だと思うので、さまざま結び付けて考えてもらい、子供も考え、先生方も考えるような場面に持っていくことが大事なのかなと思いました。

■百田委員

私の方で気になったところ、資料を見ていて気づいた点ですが、資料２－１に出てまいります「学習面・授業等に関する質問紙調査」の中で、「国語の授業の内容や算数の授業の内容はよく分わかりますか」との問いに対し、ある程度理解しているというような数値に見てとれます。一方、テストの結果からするとこれら（児童・生徒の意識）が反映されていないという状況。これは私の見るところでは、授業のその場では理解している状態だが、テストを受けてみると思ったほどでなく、結果が伴っていないことが（そのギャップに）現れているのではないかと思います。この調査のタイミングを本人の意識が伴うタイミングにするともう少し（実情が）見えやすくなるのかなと思って見ておりました。

また、同質問紙調査において、「自分がＰＣやタブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校のプレゼンを作成することができると思いますか」との問いについて全国比マイナスの結果でありました。先日の研修でＧＩＧＡスクールとＡＩの部分でお話をさせていただきましたが、その際に南相馬市の今の状況を集まった委員の方々にお話をした際には、大変熱心だというような感想をいただきました。授業では、タブレットを使用したり発表で電子黒板を使用したりという姿を拝見し、他ではそういった授業は行われておらず先進的な取り組みだ、というご意見を頂戴しました。子供たちが思っているよりはＩＣＴ機器を使えている状況なのかなと思います。ただ、子供たちからすると、周り（南相馬市以外）でどのぐらいの子がどのぐらい使えているのかという状況が見えていないので、自信を持って「できる」とは言えず、自己肯定感の低さに繋がるのかなと。南相馬市の外の状況に触れる機会が増えれば、自己肯定感ももう少し伸びるのかなと感じているところです。

■市長

皆様、ありがとうございました。

委員の皆様からは、「全国学力・学習状況調査の分析結果を対象学年・校内だけでなく全校で共有しているのか」「学習面・授業等に関する質問の実施タイミングはいつなのか」とのご質問をいただきました。その点、事務局は補足をお願いします。

■参事兼学校教育課長

一点目、分析に関しては山邉委員からありましたが、やはり対象学年だけで分析するのでは間に合いません。また、小学６年生へ出題される内容はその前の５年生の終わりまでの内容に限られたものではありません。中学校も同様に中学３年生へ出題される内容はその前の２年生の終わりまでの内容に限られたものではなく、全ての領域を網羅したような内容もありますので、逆に言うと、小学５年生になってからの対策では間に合わない部分もあります。この点は、全学年が関わるように教育委員会の方でも指導しております。

ただ、山邉委員からもありましたように、その分析結果を全校で共有していたかといいますと、学校内の共有、あるいは主任が集まって行うモデル授業の中で協議するときに一部の人間だけが話しているところにとどまっていました。

ご教示いただいたように、分析した内容を全校で共有して、「この学校ではすべての教員が関わって分析した結果はこれだ」というものを共有しながら、お互いの研修体制も考えていければと思いました。

二点目、学習面・授業等に関する質問の実施タイミングについては、調査が終わったすぐに質問があるので、百田委員のご推察のとおり、自分でやった瞬間には「できているな」と思ったが、いざ結果を見てみたら振るわないというように思っている部分もあるのかなと。私もなぜ（児童・生徒の認識と結果が）乖離しているのかなというところで非常に反省している部分がありまして、これまで取り組んできている内容の中でよりどこに重点を置くことによってこの乖離を改善できるのかということで、まとめ・振り返りを今年度も力を入れてきましたが、さらにブラッシュアップしていきたいと考えているところです。

「忘却曲線」というのは皆さんご存知かと思いますが、学校でもその理論に基づいて知識が消えていくタイミングでしっかりと復習の場を設けることも大事だと思っております。このあたりについても、もう一度学校の方と共有しながら、学校だけでは補えない部分については、やはり家庭の方にも協力をお願いしながら、連携していくのが大事なのかなと考えております。

先ほども説明しましたが、今はＳＮＳ利用の時間が多いということと、教育企画係の方でも大学教授と連携しまして、依存症との関係であったり、視力の関係であったり身体的な部分での懸念を踏まえながら、ＳＮＳとの付き合い方についてもう一度考えていくことを保護者に対しても啓蒙しながら、また、学校・家庭両輪で動いて、どうにか子供たちに確かな学力を身につけていきたいなと。

もう一つ、今年の目玉として「現職教育」を取り組んでおり、各学校で行われていますが、子供たち自身が現状に満足しているのではないかいう心配もあります。その中で、自ら学ぶということを一つの大きなテーマに掲げて各学校で取り組んでいくこととしています。「自ら学ぶ」というキーワードはその学校の実態に合った言葉で変えていいですが、とにかく子供たちの心に火をつけて、子供たち自身が学びにしっかりと向き合うように、ということで取り組んでいるところです。

まだ道半ばでございますので、これからモデル事業もございますし、令和８年度の全国学力・学習状況調査の分析もあがってくると思います。そのほか、各種調査もあ

りますので、その都度しっかりと分析して、ＲＰＤＣＡサイクルというものもあり「リサーチ」が大事であるといわれておりますので、子供たちの姿をしっかり捉えて、何の力を身につけるべきかというところを今後の南相馬市の教師がしっかりと提示できるように教育委員会の方でもサポートしていきたいなと考えております。

貴重なご意見ありがとうございました。

■市長

学力は市として「全国水準を目指す」と言っています。そういう意味では、市としての一丁目一番地の政策です。さてその評価がどうなのか見ると、悩ましいところです。資料２－３が分かりやすいですが、小学校は、一時期震災の後良くなったときもありましたが傾向として下がってきています。中学校は、一貫して全国平均を下回っています。「全国一」なんて厳しいのだと思います。

先ほど委員からもありましたが、３年後（小学６年生で調査を受ける→中学３年生の調査時の結果）どうなっていくかの分析を次回に向けてお願いしたいです。毎年の子供（集団）は変わるけども、毎年の（集団当たりの）平均が年々下がっているとしか思えません。全国平均も毎年変化する中、全国との差が年を追うごとに広がっている傾向だということが一つ。一方で、小学校６年生のときは悪かったけれど、中学校３年のときは全国より良くなった、であればいいのですがどうも違うよう。３年後と比較できる方法は何があるか、次回で結構ですので探してみてください。

その上で、結構厳しさを増しているなと思っていますが、資料２－１での教育委員会の記載を見ますと、「調査結果の概要：下回りました。下回りました。・・・」これだけです。さて、下回ったのはそのとおりだが、かなり年々ひどくなっているかもしれないと懸念しています。その分析あるいは解釈はどこに載っているのでしょうか。個別のミクロの分析はいっぱい載っています。でも、トータルとしての分析がどこにもないようで、もっと欲しいなと。「今後の取り組み」というもののありますが、これは（本来）分析があってこそ取り組みが出てくるのでしょうね。けれども「今後の取り組み」を見ると、「規則正しい生活習慣が身に付いている」とあり、それであれば成績が上がっていてもいいはず、と思ったように、ほとんど「いいこと」しか書いていないですよね。強いて言えば「土日等の学校が休みの日の児童生徒の学習時間が短い」とありますが、（学力低下の原因は）果たしてこれだけなのですか。これでは土日は短いが、平日は問題ないようにも受け取ってしまいます。いいことばかりだが結果が出ていない状態なので、総合的な分析をしっかりしてほしいなと思っています。

そのあとに「学力向上への取り組み」として三点ありますが、「何が悪いのでどうするか」が書いてない中で「こうやります」という原因の分析をしないで一般論的にやるとしか書いていない。ミクロの分析でなくて、マクロの分析をしてほしいなと。決して状況は甘くないと思っています。こちらはこちらで教育委員会での考えということでは捉えていますが、正直この分析内容では対策の取りようがないかと。いいことはたくさん書いてあるので、今のままでいいと錯覚してしまいますが、委員の皆様からも各種数値に反して結果に出てこないという意見がありました。そういうモヤモヤ感（の原因）がこれでは見えないと私も思います。これでは取り組みが正しいのかど

うかもわからないし、「何が悪いからここを良くする」などの視点でもっとシビアに見ないと、「あれやります・これやります」が合っているのかどうかが分かりません。

「学力向上への取り組み」で、「教員一人一人の授業力の向上」とありますが、教員の授業力が低いのが（学力低下の）原因なのでしょうか。先ほど触れた「土日等休みの日の児童生徒の学習時間が短い」は、「＝家庭での学習時間が短い」ということかと思いますが、平日も決して長くないと思っています。塾への通塾率などを見るとたしか全国比で１０％ほど低いはずであり、家庭での教育・家庭での親御さんの意識・家庭での復習が足りないのではないかと漠然と思っています。一方で取組を見ると「学校が悪い＝教員の授業力を向上して事業改善に努めます」とあり、アンバランスな状況と承知しています。若干厳しいようですけれど、報告事項ですので意見とさせていただき、教育委員会でどのように受け止めるか、あるいは今後どうするかということになるかと思います。

■教育長

資料２－１：結果の概要については、市のホームページの方に載せて今回こういう状況だったというものをお知らせするようなものになります。そのため、内部ではもう少し細かいところの分析はしているところですが、今ほど市長からいただいたようなマクロの部分、もう少しシビアな分析ということに関しては、やはりもう少し意識しながらやるべきなのかなと思って聞いておりました。例えば資料２－２をご覧いただきたいのですが、それぞれ小学校・中学校の国語・算数の結果が棒グラフで示されておりこれを見れば一目瞭然ですが、下位児童の層が厚くなってきている状況です。特に意識していただきたいのは、記載があります「平均正答数」です。例えば「小学校国語」について、南相馬の子供たちは 7.2 点／全 13 問取っています、全国の子供たちは 7.9 点／全 13 問取っていますということです。この約 1 問の差を我々教員は何とかしようということでやってきています。ただそれがなかなか学校の方で結果を出せていないというような視点をきちんと持った上で、例えば下位児童に対してこういう指導をしていきましょう、というようなことを明確に訴えることができるデータをしっかり導き出し、各学校に理解していただいて、それを徹底的にやっていただくというような努力を続けていけば、やがていい方向に向かうのではないかと考えております。

全国学力・学習状況調査というのは、いわゆる普通のテストとは違うタイプの調査でありまして、普段の学校での授業風景などが問題に出されていたりします。学校でどんな授業を行っているか、そういうようなことも回答していく中で重要になってきますので、やはり過去問をしっかり解いていただくような状況の授業を学校の方でやっていただくということが大事だなと。ただ、市長からもありましたように、（取組と成績が）相反しているのは学校のせいだけなのかっていうことに関しては、私も同意見でやはり家庭での子供たちの学習定着に対する努力がもう少し必要なのかなと。先ほど、学校と校長会・教育委員会・ＰＴＡでパンフレットを作っているお話もありましたが、もしかするとそのパンフレットに各学校から各家庭で休日は２時間程度学習しましょうというような推奨時間をきちんとした数字で載せて曖昧にせずにこの程

度はやっていただきたいという姿勢を見せていくことも大切なのかなとこの資料を見ながら感じたところでございます。
まだまだしっかり対応しなくてはいけない部分があるということに関しては、私も認めておるところです。引き続き頑張っていきたいと思います。

■市長
ありがとうございました。
その他、よろしいでしょうか。それでは、続いて報告事項「（２）南相馬市業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく実施状況について」、事務局から説明をお願いします。

（参事兼学校教育課長 説明）

■市長
ありがとうございました。今回は概要説明のみとのことで、また、別途教育委員会定例会でも委員の皆様へ事務局から説明があったとのことですので、報告のみとさせていただきます。
それでは、続いて報告事項「（３）令和７年度第２回総合教育会議における意見等への対応について」、事務局から説明をお願いします。

（参事兼学校教育課長 説明）
（参事兼生涯学習課長 説明）

■市長
委員の皆様からは質疑等はありますか。

（「なし」の声）

■市長
一点、前回（令和７年１１月）の「中年層の学ぶ意欲を拾う場を他の市町村ではどのようにしているのかも踏まえながら取組ができれば」との意見に対し、事務局からは「南相馬市ではこうやっています」というのは羅列されていますが、他の市町村の調査はしたのでしょうか。

■参事兼生涯学習課長
まだ実施しておりません。

■市長
今行っている取組は分かりましたが、他の市町村がどのようにしているのかも踏まえながらというところですので、その点に対する調査もお願いします。

その他、よろしいですか。それでは、続きまして「５　協議事項」に入ります。協議事項「（１）令和７年度主要施策（教育委員会所管）の評価について」、事務局から説明をお願いします。

（次長兼企画課長 説明）

■市長

ご質問・ご意見何でも結構ですので、委員の皆様から一言ずつお願いいたします。

■和田委員

部活動の地域移行の件で申し上げます。他市の状況も踏まえて今後検討していってくださるということで、ぜひ同じくらいの規模感の市町村を見ていただきたいなと思います。おそらく都心部と違って移行先が無いか少ないと思いますので、他の同じような状況の市町村がどのようになされているのかを見ていただきたいなと。

あと、極端な例ですが、部活動を学校から切り離して地域のスポーツクラブみたいな組織化するとかはいかがでしょうか。そうすると人数が少ない学校だからできなかった部活動なども合わせて解消できるのかなと。アイディアとして思いつきましたので、申し上げます。

■百田委員

和田委員からも部活動のお話が出ましたので一点。部活動の地域移行という話もありますが、必ずしもこの南相馬にいる人でなくてもできる部分もあるのかなと思いまして調べてみましたところ、部活動の指導者をリモートで行っている地域もあるそうです。こちらであれば、現状学校が離れている中にあってもそれぞれの学校にてリモートで対応ができるのであれば、毎日子供たちが一同に集まってやるという形でなくてもできる部活動も存在するのかなと見ておりましたので、この辺りも検討いただきまして可能な部分がありましたらぜひ。移動時間をあまり多く取られるとせっかくの部活動の活動時間が短くなってしまい子供たちがかわいそうですので、こういった仕組みを活用しながらお考えをいただきたいなと思っていたところです。

それから、生涯学習の方でも一つ思っているところがございます。生涯学習の分野で南相馬の特色を出したいなというところもありまして、現在、ロケットやドローンであったりを進めていることもありまして、先端技術を市内へ、というところで考えている面もあろうかと思っています。そういうところで、今年７月に研修に行った際、３Ｄプリンターを置いている図書館がございました。これを市民の皆さんが使えるような状況にあったならば、例えば現在、ＡＩを使えば設計図を作ることができるというものもあります。それらを今度は形に起こすようなことができれば、（このような分野を）もっと学びたいという人が増えるのではないかなと思っています。これがさらに小学生・中学生まで広がれば、将来有望な子供たちも育つのかなと考えておりますので、この辺りもご検討いただきまして、生涯学習の幅を広げていただけたらなと思います。

■山邉委員

本日の報告事項の視点からは少し離れますが、熊本地震や千葉豪雨、幾度の台風接近を目の当たりにしたときに、避難所となる公共施設・学校施設があるかと思いますが、やはりそういった体制の確認、例えば、夏季休業中に学校関係者がみんな出払っている・地元にいない場面も当然考えられますし、避難設備の関係で市役所の方との連携もあったかと思いますが、うまくいかない場面などを想定して、災害時のシミュレーションを再確認する必要があるのかなと。全国各地で災害が起こっているような状況ですので考えた次第です。

■金子教育長職務代理者

繰り返しになりますが、全国学力・学習状況調査に関してですけれども、先生方は一生懸命やってくださっていて、そこに対して子供たちも一生懸命取り組んでいて、先日伺った研修の内容や今回の資料・意見を伺って、保護者の意識改革がすごく大事なのかなと私は思ったところです。保護者に対してもう少しアピール・注意を促すべきかと。これまで子供に対しては必要なのかなと思っていましたが、どうも（ターゲットは）保護者なのかなと感じましたので、アピールとして例えば保護者向けのセミナーとまでは言いませんが、保護者向けに重要性や子供との関わり方など発信していくのが必要かなと感じました。

■市長

ありがとうございます。要望事項も多いので整理します。

和田委員からは、部活動の地域移行の中で、同じぐらいの規模の自治体と比較をしてほしいというのが一つ。学校から地域への移行も一案ということでよろしかったでしょうか。

■和田委員

そのようになります。百田委員からもあったようなリモートなどさまざまな方法あるのではないかということです。

■市長

わかりました。

そのほか百田委員からは、一律に市内で実施するだけでなく、例えばリモートなどでの取組も考えて欲しいし移動時間（の短縮）も大事だという話と、要望として生涯学習においてさまざまの市の特色を出すようなものもいいのではないかということ。例えば、３Ｄプリンターが図書館に置いてあるというような例もあるから、幅を広げてさまざま考えてみてはどうかというご提言。

山邉委員からは、災害時の避難所についてお休みの日はどうなっているのかというご確認。こちらは後ほど事務局から回答をお願いします。

金子委員からは、学力向上に対し一生懸命取り組んでいくに当たり、子供に対する

働きかけも大切だと思ったけれども、保護者の意識改革も必要だと思うことから取り組んでほしいということでした。
以上については（事務局で）ご意見としていただくということでよろしいでしょうか。

■教育長
はい。

■市長
避難所については喫緊のことですので担当部長より説明をお願いします。

■復興企画部長
避難所について、地震等が起きた際、初めに開く避難所として先行避難所というものが市内４か所あります。原町区ですと大甕小学校と原町第二中学校、それぞれ体育館を使用します。小高区ですと小高中学校の体育館、鹿島区は桜平山の生涯学習センターということになっております。すなわち４か所のうち３つが学校施設ということになっているところでございます。先ほどお話にありましたとおり、夏季休業中の対応に関して現状としましては、学校の先生方に鍵を開けてもらうという風なことになっております。
私ども市では、７月に熊本地震の３週間前にはなりますが熊本県に視察に行っております。熊本県では、地域に開錠をお任せしているというようなことを伺っております。自治体の職員へも辞令を出して、学校周辺に住んでいる職員や配置されている職員で災害が起きたときは学校を開けるような体制に取り組んでいるところでございます。
私どもとしても、避難所についてはその地域とそこにいる職員で緊急に開けるような体制をどうにか組みたいという風に現在考えているところでございますが、まだ上手く進んでいない状況ですので、早急に考えてまいりたいと思っているところです。

■市長
細かい点ですが、本市では避難所ごとに従事職員を事前に決めておき、災害等あれば私の指示がなくても一定程度必要があれば避難所を自動的に開設することができるような体制になっているかと思いますが、現状、学校の先生がいないと開錠できないのですか。

■次長兼教育総務課長
教育総務課と各区地域振興課の方で鍵を保管してありますので、従事職員についてはそちらに必要な荷物と一緒に取りに来ていただくような形ですぐ避難所開設ができるようには準備を整えております。

■市長

万が一、学校と連絡がつかない場合でも、体育館を開けて使わせてもらうような約束になっているということでしょうか。

■次長兼教育総務課長

そのようになります。

ただ、夏の暑さ対応ということで、エアコンを使用できる校舎内に入れていただくような場合については、学校側へ事前に調整をさせていただく必要はある状況です。

■市長

避難所の暑さ・寒さ対策もこのところ話題になっています。そういう意味では、体育館のエアコン設置を急ピッチで国も進めようとしていますし、南相馬も毎年２校～３校くらいのペースで増やしていきたいと思います。ただやはり時間もかかります。そのため、教室の利用も柔軟に考えていくべきなのでしょうね。まずは体育館に集めたとしても、教室だと冷暖房が整っていますから、休日などの可能性もありますが、それだけ必要だとすれば、体育館だけでなく、教室・空き教室を当面柔軟に使用させてもらう形。基本的には学校への事前予約を入れたいと思います。

さて、そのほか個別にさまざまご意見が出ましたが、教育長から総括をいただいてもよろしいでしょうか。

■教育長

委員の皆様からいただいたご意見、やはり我々もしっかりと取り組んでいかなくてはいけない部分かなというような点たくさんありました。ありがとうございました。

一番は学力向上ということで、最初の話題でだいぶ時間を使わせていただきましたけれども、本当にご心配いただいているところかと思います。今年度の４月に行われた全国学力・学習状況調査の結果がご覧のとおりですので、来年のサマーレビュー（令和８年度主要施策の評価）での目標に対する実績値は低いことが既に決定事項になっており、さてどうするべきかという状況にあります。

ただ、もう一方で数字にごまかされないようなことも考えていかなくてはいけないのかなと個人的には思っております。やはり南相馬の学校教育は素晴らしい、ということをたくさんアピールすることも大事。他市町村では与えられていないような人的配置というのは本当に誇るべきところです。こういうようなところをしっかりアピールしつつ、子供たちの学力ももちろん伸ばしていきますけども、そういう南相馬の教育の得意なところをしっかりアピールして、選ばれるまちになっていくというような戦略も必要なのかなと感じているところです。

ただ、今与えられた目標に対してクリアしていかなければいけないという状況ですので、また今年度も後半戦頑張っていきたいと感じているところです。

本日はありがとうございました。

■市長

ありがとうございました。

その他、皆様から何かございますか。

（「なし」の声）

■市長

本日はありがとうございました。時間配分については、次回はより良くしたいと思います。それでは、事務局にお返しします。

■次長兼企画課長

事務局より令和８年度第２回総合教育会議の日程をお知らせいたします。次回は、令和８年１１月２０日（金）を予定しております。協議内容については、「令和９年度当初予算に向けた具体的な事業」についてご協議いただく予定となっております。
会議開催については、本日同様、教育委員会定例会終了後に引き続きとなりますのでよろしくお願いいたします。

長時間にわたり慎重なご審議をいただきましてありがとうございました。
以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。

資料２－２と資料２－３については未公表の情報を含んでおりますので、机の方に置いてご退席いただければと思います。

皆様、ありがとうございました。

午後４時４０分　閉会